

ライブラリアンの医療・健康情報発信を考える

—私たちの“伝えたい”ことは “伝わっている”のか・“伝えるべき”ことなのか—

小嶋 智美

Independent Librarian

この企画では、図書館という「組織」ではなく、ライブラリアンという専門性を持った「人」が主体になって行うことのできる「医療・健康情報発信の可能性」について、みなさんとゆるやかに考えていきます。

おそらく、「□□であるべきだ」「□□は正しい（あるいは“間違っている”）」「□□さえ知っていれば（あるいは“揃っていれば”）OK」というような、画一的で固定された答えを得ることはできません。けれどきっと、これまでの自分にはない新しい視点を感じられる時間になるでしょう。たくさんの種蒔く人が集ってくださることを願っています。

- ・ 企画の内容上、図書館などの情報サービスに関わる方が多くなるかもしれませんが、それ以外の方が参加してくださってもまったく問題はありませぬ。むしろライブラリアンに新しい視点を与えてくださる方として、大歓迎いたします。
- ・ [事前に参加を決めてくださった方へのお願い]
よければ、あなたがぜひ伝えたいと思う「医療・健康情報」をお持ちください。
「昔、自分が病に伏したとき、〇〇が支えになった」
「〇〇は異なるジャンルだが、ヘルスリテラシー向上にも役立つのではないか」
「納得のいく最期を迎えるための準備として、〇〇を愛読している」など。
現物でも、書誌や URL 等のメモ書きを持参して下さっても、結構です。
もちろん、手ぶら・ノーアイデアでも大丈夫です。
- ・ [”はじまりの語り人”をご紹介します]
より多角的でフラットな意見交換ができるよう、以下の方々がはじまりに数分ずつお話して下さいます。こちらもどうぞ、楽しみにしてて下さい。

藤坂 康司さん（株式会社 偕成社）

舟田 彰さん（川崎市立宮前図書館）

松田 真美さん（NPO 医学中央雑誌刊行会）

企画運営協力：中島 ゆかりさん、ふじた まさえさん、吉本 龍司さん